

SDGsを通して育む 自ら考える力

みどり市内唯一の高校であり、

県内でも指折りの歴史を持つ大間々高等学校。

開校以来の精神を大切にしながら、

最新の教育方法を取り入れていく同校の活動を、

高橋みゆき校長と教諭、生徒の皆さんに聞いた。

**三方よしの精神が息づく
歴史ある伝統校**

わたらせ渓谷鐵道の大間々駅近く、緑豊かな自然の中に群馬県立大間々高等学校がある。生徒数は345人。駅から歩いて、急な坂道を上りきつたころに校舎が見えてくる。

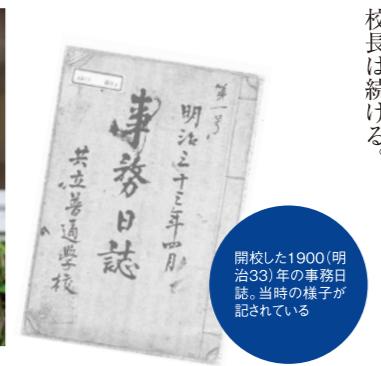
同校は1900(明治33)年4月、群馬県知事に認可され、井上浦造氏の尽力により共立普通学校として開校された。元は私塾に近く、最初の学生数は14人だつた。

高橋校長。それは校訓の「自立至誠 前進」と、校風の「雄健 学勤業励」だ。

また、井上氏は人格を高め、社会に貢献する力を育てる教育を続けた。その中には近江商人の多かった大間々の地らしく、「三方よし」の精神もあった。高橋校長も、「売り手よし、買い手よし、世間よしの三方よしは今も受け継がれています。自分のことだけでなく、相手と地域にも心を配る考え方は、当校の根幹ともいえる特徴を、とても素直であり純朴で真面目。まちの人からも可愛がられ、温かく見守られていると高橋校長は続ける。

SDGsとは、2015年9月の国連サミットで採択された、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標で、17のゴールがある。国連というと遠い話に聞こえるが、ゴールを身近な問題に置き換え、解決するのには十分SDGsの活動につながる。SDGsの指導教諭の一人である今井徳子教諭は「昨年、共生社会というテーマを取り上げ、話を授業を受けた生徒たちから

LGBTQ+(性的マイノリティ)について授業をしました」と、話は、「知っていたつもりでも知ら



大間々高等学校を初代校長となつた井上浦造氏像

開校した1900(明治33)年の事務日誌。当時の様子が記されている。

一方で、現代の高校生は新聞やテレビを見なくなり、自分の興味のある情報以外に触れる機会が格段に減ったと高橋校長は懸念する。生徒たちに多くの情報と刺激を与え、気づきや自ら考える力を養ってほしいと、昨年からさまざまな人を招聘し講演会を行ってきた。今年の5月には東京大学名誉教授の上野千鶴子氏と、オンラインでディスカッションを開催。校外から多くの参加者があり大成功をおさめた。

そうした取り組みの一つとして、昨年から始まつたのがSDGsの教育だ。

SDGsとは、2015年9月の国連サミットで採択された、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標で、17のゴールがある。国連というと遠い話に聞こえるが、ゴールを身近な問題に置き換え、解決するのには十分SDGsの活動につながる。

SDGsの指導教諭の一人である今井徳子教諭は「昨年、共生社会というテーマを取り上げ、話を授業を受けた生徒たちから

知識と情報を増やす 気づきの機会を創出

一方で、現代の高校生は新聞やテレビを見なくなり、自分の興味のある情報以外に触れる機会が格段に減ったと高橋校長は懸念する。生徒たちに多くの情報と刺激を与え、気づきや自ら考える力を養ってほしいと、昨年からさまざまな人を招聘し講演会を行ってきた。今年の5月には東京大学名誉教授の上野千鶴子氏と、オンラインでディスカッションを開催。校外から多くの参加者があり大成功をおさめた。

そうした取り組みの一つとして、昨年から始まつたのがSDGsの教育だ。

SDGsとは、2015年9月の国連サミットで採択された、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標で、17のゴールがある。国連というと遠い話に聞こえるが、ゴールを身近な問題に置き換え、解決するのには十分SDGsの活動につながる。

SDGsの指導教諭の一人である今井徳子教諭は「昨年、共生社会というテーマを取り上げ、話を授業を受けた生徒たちから

なかつた」、「これまで聞く機会がなかつた」、「身近な人から打ち明かと知った」との声があり、身近な問題として考えた手ごたえを感じたそうだ。

高橋校長は、正解を答えようとすると、どうしても口が重くなるとし、「誰もが自分の意見を述べられ、それを受け入れる姿勢を持つてほしい。そのため高校生活を通して、さまざまな知識や情報に触れられる機会を作っていくます」と語った。

自らが問題を見つけ、考え、仲間と意見交換をし、解決策を生む。教諭たちの指導のもと、高校生たちの思考は、のびやかに成長していくだろう。高校を卒業した生徒たちは、次に地域を豊かにする。三方よしの精神に支えられて吹く生徒たちの未来に、大いに期待したい。

昨年に赴任した高橋みゆき校長によれば、京都の同志社大学で学び帰郷した井上氏は地域の生徒を集め、将来は柱となって地元に貢献できる人材の育成を目指したという。井上氏は当初、教育のほかにキリスト教の普及を目指していたが、次第に教育に情熱を注ぐようになる。開校して4ヶ月後の8月には、生徒数は25人にまで増加した。

当時の資料によれば開校当初

は全校が一丸となり、障子張りや砂利取り作業など学校づくりにあたつた。一方で、現笠懸町に

設立当初からは考えられない規

模に成長。1998(平成10)年に

町立の群馬県大間々高等学校

が誕生した。定員も450人と、

位制を導入する。

「時代に合わせて学校が変わ

中でも、残るものがあります」と、

ある琴平山への遠足、渡良瀬川遊泳、貴船神社への遊歩なども行い、学校らしい行事を職員と生徒が一緒にになって楽しんだ様子がうかがえる。

1948(昭和23)年4月には、

群馬県内の高校で初めての単

校と合併、今の大間々高等学校

が誕生した。定員も450人と、

位制を導入する。

「時代に合わせて学校が変わ

中でも、残るものがあります」と、

ある琴平山への遠足、渡良瀬川遊泳、貴船神社への遊歩なども行い、学校らしい行事を職員と生徒が一緒にになって楽しんだ様子がうかがえる。

1948(昭和23)年4月には、

群馬県内の高校で初めての単

校と合併、今の大間々高等学校

が誕生した。定員も450人と、

位制を導入する。

「時代に合わせて学校が変わ

中でも、残るものがあります」と、



生徒会長・井上浦造みらい塾
関口 結香(ゆか)さん

高橋 みゆき校長



SDGsみらい塾は昨年から、みらい塾リーダー養成講座となり、生徒たちは学びを深め、後輩や同級生たちをけん引する役目を担う

理科 生方 千晴教諭
英語科 根岸 彩夏教諭
家庭科 今井 徳子教諭

Information
群馬県立大間々高等学校
みどり市大間々桐原193-1
TEL0277-73-1611

SDGs指導担当教諭

理科 生方 千晴教諭
英語科 根岸 彩夏教諭
家庭科 今井 徳子教諭

SDGsの指導教諭の一人である今井徳子教諭は「昨年、共生社会というテーマを取り上げ、話を授業を受けた生徒たちから

LGBTQ+(性的マイノリティ)について授業をしました」と、

話は、「知っていたつもりでも知ら

た」と実感しています」と笑顔を

見せる。

生徒らが考え、意見を出し合

い、結果を形にする教育として

SDGsは大きな成果を上げた。

同校では昨年から、週に1度の探



生徒たちにより、ジェンダー平等のための新しい制服規定を広報する動画が制作された

プロジェクターを使い、オンラインで遠方の講師による講演を聞く

結果、「今では周囲の理解が深ま

り、一緒に参加したいと申し出る

人や、授業で発言する人が増えて

きた」と実感しています」と笑顔を

見せる。

文/小林美佐子 写真/篠原亨 写真・動画提供/群馬県立大間々高等学校 デザイン/伊藤剛志

SDGsの指導教諭の一人である今井徳子教諭は「昨年、共生社会というテーマを取り上げ、話を授業を受けた生徒たちから

LGBTQ+(性的マイノリティ)について授業をしました」と、

話は、「知っていたつもりでも知ら

た」と実感しています」と笑顔を

見せる。

生徒らが考え、意見を出し合

い、結果を形にする教育として

SDGsは大きな成果を上げた。

同校では昨年から、週に1度の探